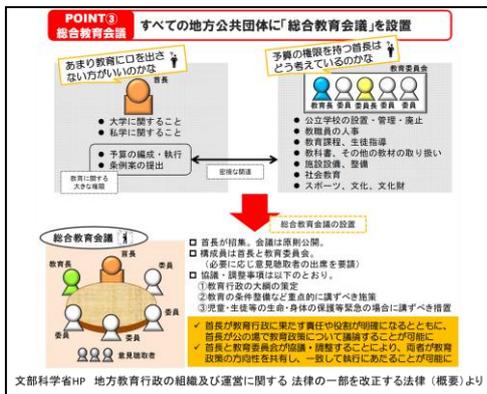


■はじめに

今年度も折り返し地点にさしかかりました。学校現場では体育大会などの行事でたいへん忙しくしていただいていると思いますが、大きな事故があったということは聞いておりません。子どもたちの安全に心を配っていただきありがとうございます。引き続き、今年度の後半もよろしくおねがいします。



■地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律



「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が、平成 27 年 4 月 1 日に施行となります。

この改正のポイント、教育の政治的中立性や、継続性・安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任体制の明確化、迅速な危機管理体制の構築、首長との連携強化を図るとともに、地方に対する国の関与を明確化することにあります。

現在、奈良市では、教育委員会の代表である教育委員長を含め 5 人の教育委員が任命されており、私もその 5

人の中のひとりです。これが新しい制度になると、教育委員長と教育長を一本化した「新教育長」が設置され、教育委員会の代表となります。首長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政の推進を図ることが期待されています。

平成 27 年 4 月から始まる新制度のもとでは、本市では首長である市長と教育委員会で構成される「総合教育会議」の中で、「教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」を策定していくこととなります。先生方も、今後の教育はこのような方向性で進んでいくということについて、ぜひご理解をお願いします。

■これからの教育について

本市では、このような国の動きに対応することに加え、「質の高い公教育の実現」、「時代に対応した改革の推進」を目的に、グローバルな視点、斬新な視点、また、15 年先の社会、つまり「今、小学校に入学した子どもたちが大学を卒業する頃、社会はどうなっていて、その時代を生きる子どもたちには何が求められるのか」という視点からご意見をいただく懇談会を開いています。

この懇談会には、様々な経験と、高い見識のある方に出席をお願いしました。

一人目は、柴崎洋平さんです。フォースバレー・コンシェルジュ株式会社の代表取締役社長であり、上智大学非常勤講師も務めておられます。2007 年に、日本を代表する企業が全世界から優秀な新卒の人材を採用するビジネスをサポートする現在の会社を起業され、グローバルな留学推進、採用支援を行っておられます。

二人目は、藤沢久美さんです。大学まで奈良県に住んでおられた、奈良県出身の方です。会社

の経営や戦略にアドバイスを行う会社であるシンクタンク・ソフィアバンクの代表であります。NHK「21世紀ビジネス塾」のキャスターを3年間務められた際の、1000社を超える全国の中小企業やベンチャー企業への取材は、高い評価を受けておられます。

三人目は、藤原和博さんです。キャリア教育の本質を問い、社会と学校、子どもたちを結び付けていく「よのなか科」を提唱された方です。2003年4月から、都内で義務教育初となる民間人校長として杉並区立和田中学校長に着任され、様々な教育活動を実践されました。この和田中をモデルとした、「学校支援地域本部」は、全国展開される国の事業となりました。

四人目は、松田悠介さんです。Teach For Japanの代表理事であり、最高経営責任者を務めておられます。経済産業省委員、京都大学特任准教授等も歴任されています。アメリカのTeach For Americaに感銘を受け、日本で2010年にTeach For Japanを創設されました。将来、教育現場や社会でリーダーシップを発揮できる人材の育成をされています。

五人目は、毛受芳高さんです。「全ての若者が、明日の社会の担い手になるための架け橋＝アスバシ」を提唱され、一般社団法人アスバシ教育基金を設立されました。学校と地域をつなぐ「教育コーディネーター」として、先駆的な実績をつくられた方でもあり、経済産業省とともに「キャリア教育コーディネーター」の評価・認定制度の創設に関与され、現在の認定試験制度を実現された方です。

8月29日に開催された第1回の懇談会では、

- ①グローバル化に対して、どのように対応した教育をするのか。
- ②デジタル、IT化にあわせた教育をどのようにするのか。
- ③教育の効果検証をどうするのか。教育の目標は、学力だけではないはずである。また、学力テストの結果をどう振り返り、学校現場での指導にどう生かすのか。
- ④ベテラン教員と若手教員のギャップを乗り越えるため、教材も含めた教育環境の変化への対応や支援をどのように構築するのか。
- ⑤経済的に苦しい家庭に対しての学習支援や放課後学習などの手立てをどうするのか。

といった視点に立った意見をいただきました。

■グローバル人材とは



さて、「グローバル人材」とは、どのような人材なのでしょう。か。「国際社会で通用する人材」という意味なのでしょう。か、英語が堪能ならば、必ずグローバルな人材なのでしょう。か。私は、英語は一つのツールでしかないだろうと考えています。

一条高校の生徒たちが、「なら国際映画祭」に参加された外国の方々とは交流しました。交流の後、一条高校の卒業生である映画監督の河瀬直美さんから「一条高校の活躍に期待している」とのお言葉をいただきました。

その際、

「外国の監督から、『河瀬直美の作品は奈良に軸足を置いているけれど、奈良を通して何を伝えたいのか?』と、よく問われます。その答えをはっきり言えないと、私の作品も世界では通

用しないと思います。」

と、話されていました。また、

「私は、奈良で育ち、奈良で学べたことが大変よかったです。今、私の子どもは小学校5年生ですが、家に帰ってきて世界遺産学習のことを楽しそうに話してくれます。涙が出るほどうれしい気持ちになります。自分が育つ町を知り、好きになることは、素敵なことですよね。」と、印象に残る話をしてくださいました。

■おわりに

「グローバルな教育」という言葉は私も何度か使ってきましたが、元来教育や文化というものは、自国の歴史的な文脈の中でまず理解がなされるものだと思うのです。その上で異文化があることを知り、それを受け入れていく、自国のアイデンティティに根ざした多様な価値観を獲得することこそが、グローバルな教育の本質だと考えるのです。つまり、世界に通用する人材とは、むしろ、自国の歴史や文化や国民性をしっかり理解し、自国に軸足を置きながら、なおかつ独創的な視点を持って外国に相對していく人なのではないのでしょうか。確固たるアイデンティティに裏付けられた、魅力ある人間力の持ち主が、グローバルな人材だと思うのです。「世界遺産学習で子どもに誇りをもたせたい」と言っていますが、まずは校長先生たちが理解をしていただいてから進んでいってほしいと思います。

グローバル化する世界は、ますます多様化の一途をたどります。多様性を許容しつつ、様々な価値観が共存する時代であるからこそ活躍できる人材を、日本から、そして奈良から育てていく教育を担っていきたいと考えるのです。アイデンティティをもっていないと、世界に向かつてはいけません。

我々の時代には無かった教育の手法に戸惑い、腰が引けることもあるでしょう。しかし、じっと立ち止まっていたら、下りのエスカレーターに乗っているようなものです。変化の激しい時代に取り残されてしまいます。新しい教育の手法にも、積極的に取り組んでいただきますよう、よろしくお祈いします。